

令和6年度大豆生育定期調査結果 No.4 (軽米町 成熟期の生育・収量・品質)

岩手県農業研究センター 県北農業研究所 作物研究室 (TEL 0195-47-1073 FAX 0195-49-3011)

1 生育・収量 (表1、図1)

「ナンブシロメ」「シュウリュウ」「リュウホウ」について、成熟期はいずれの品種も概ね平年並に到達した。

「ナンブシロメ」では7月下旬の倒伏の影響により主茎長が平年より短かったが、「シュウリュウ」「リュウホウ」は倒伏が無く平年より長かった。青立ちは平年より少なかったがすべての品種で散見された。

いずれの品種も主茎節数は平年より多かったが、分枝数は少なかった。また、稔実莢率が平年を大きく下回り、稔実莢数及び一莢内粒数を十分に確保できなかったことにより子実重が平年を下回った。開花期(7月下旬)の高温や、8月第1～第2半旬に1週間以上の連続無降水期間があったことで、不稔莢の増加、一莢内粒数の減少、子実の小型化が引き起こされたと考えられる。

「リョウユウ」については、成熟期は他の品種よりも1週間ほど遅く、倒伏の程度は「ナンブシロメ」より小さかった。主茎長は「ナンブシロメ」「シュウリュウ」よりも長い「リュウホウ」より短く、主茎節数と分枝数は最も多かった。1莢内粒数は最も少なかったが百粒重は最も大きく、大粒割合も他の品種を上回った。子実重は「シュウリュウ」「リュウホウ」より大きく「ナンブシロメ」より小さかった。

そのほか、ほ場内で葉焼病が発生し、特に「シュウリュウ」で程度が大きかった。

表1 成熟期調査・収量調査結果

品種	年次	成熟期 (日)	諸障害発生程度			主茎長 (cm)	主茎 節数 (節/株)	分枝数 (本/株)	着莢数 (莢/m ²)	稔実 莢数 (莢/m ²)	稔実 莢率 (%)	一莢内 粒数 (粒/莢)	子実重 (kg/a)	百粒重 (g)	大粒 割合 (%)
			倒伏 (0-5)	青立 (0-5)	蔓化 (0-5)										
ナンブシロメ	R6	10/18	2.0	2.0	1.0	79.4	17.2	4.9	1115	886	79.5	2.07	50.7	30.2	22.6
	平年	10/18	2.3	3.3	1.5	84.1	15.9	5.5	1008	905	89.8	2.19	53.5	28.3	30.0
	平年差・比	0	-0.3	-1.3	-0.5	-4.7	+1.3	-0.6	111%	98%	-10.3	95%	95%	107%	-7.4
シュウリュウ	R6	10/17	1.0	1.0	1.0	80.7	17.3	3.5	826	625	75.6	1.55	30.5	35.8	86.1
	平年	10/17	0.8	1.5	0.3	74.7	16.1	3.7	829	748	90.2	1.70	45.7	38.4	90.8
	平年差・比	0	+0.2	-0.5	+0.7	+6.0	+1.2	-0.2	100%	83%	-14.6	91%	67%	93%	-4.7
リュウホウ	R6	10/17	1.0	1.5	1.0	86.4	17.3	3.8	775	666	85.9	1.71	36.6	35.9	73.3
	平年	10/16	1.3	1.5	0.2	72.0	15.5	4.7	840	783	93.1	1.74	46.1	35.0	79.0
	平年差・比	+1	-0.3	+0.0	+0.8	+14.4	+1.8	-0.9	92%	85%	-7.2	98%	79%	103%	-5.7
リョウユウ	R6	10/24	1.0	1.5	1.0	83.9	18.8	4.9	915	719	78.6	1.49	40.7	39.9	93.1
	平年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	平年差・比	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

※ 「平年」は令和元年～5年の5ヶ年平均値

※ 「子実重」は粒径5.5mm以上の子実を対象

※ 「諸障害発生程度」は、0(無)～5(甚)の6段階評価。いずれの障害も圃場における観察による評価

※ 「リョウユウ」は平年値無し

2 品質 (表2、図1)

検査等級は「ナンブシロメ」では1等であったが、その他の品種では「しわ」「虫害」により落等し、平年を下回った。障害粒について、いずれの品種もしわ(ちりめんじわ)が多く、開花期以降の高温と極端な乾燥条件と湿潤条件の繰り返しが影響したと考えられる。また、紫斑が平年より多い傾向にあったが、8月の気温が平年より高く推移し分生胞子の形成に好適であったことが原因と推察される。

表2 品質調査結果

品種	年次	農産物検査			障害粒の発生割合 (%)							
		等級 (1-10)	落等理由	紫斑	褐斑	べと	腐敗	裂皮	しわ	未熟	虫害	
ナンブシロメ	R6	1等 (3.0)	—	0.8	0.0	0.0	0.0	3.7	18.8	0.7	2.5	
	平年	2等 (3.5)	—	0.3	0.0	0.0	0.2	3.7	0.7	0.5	2.3	
	平年差・比	—	-0.5	—	+0.5	0.0	0.0	-0.2	0.0	+18.1	+0.2	+0.2
シュウリュウ	R6	3等 (7.3)	しわ・虫害・紫斑	2.2	0.0	0.0	0.5	2.9	31.6	0.1	6.9	
	平年	2等 (3.3)	—	0.3	0.0	1.0	0.7	3.1	1.0	0.0	3.7	
	平年差・比	—	+4.0	—	+1.9	0.0	-1.0	-0.2	-0.2	+30.6	+0.1	+3.2
リュウホウ	R6	2等 (6.0)	しわ・虫害・裂皮・紫斑	0.8	0.0	0.0	0.5	5.7	48.6	0.0	4.0	
	平年	1等 (2.4)	—	0.5	0.0	0.1	0.1	3.6	4.3	0.3	3.3	
	平年差・比	—	+3.6	—	+0.3	0.0	-0.1	+0.4	+2.1	+44.3	-0.3	+0.7
リョウユウ	R6	2等 (4.5)	しわ・粒揃・虫害	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	17.8	0.0	2.1	
	平年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	平年差・比	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

※ 「等級」は1 (1等上) ~ 9 (3等下)、10 (規格外) の10段階評価

※ 「裂皮」及び「しわ」は軽微なものを含む

3 耕種概要

播種日：5月24日

栽植密度：14,286株/10a (条間70cm、株間10cm、1株1本仕立て)

施肥量 (kg/10a) : N-P₂O₅-K₂O : 3.0-9.0-7.5

堆肥：おがくず牛ふん堆肥 2,000kg/10a

雑草防除：ラクサー乳剤 薬液500mL/10a、希釈水量100L/10a (播種後出芽前)

病虫害防除：クルーザーMAXX 8mL/乾燥種子1kg (播種前、塗沫処理)

トレボン乳剤 1,000倍 (7月2日)

スミチオン乳剤 1,000倍+リドミルゴールドMZ 500倍 (8月1日)

プランダム乳剤25 4,000倍+プレバソンフロアブル5 4,000倍 (8月19日)

スミチオン乳剤 1,000倍+プロポーズ顆粒水和剤 1,000倍

+バリダシン液剤5 500倍 (9月4日)

中耕培土：7月2日、7月22日

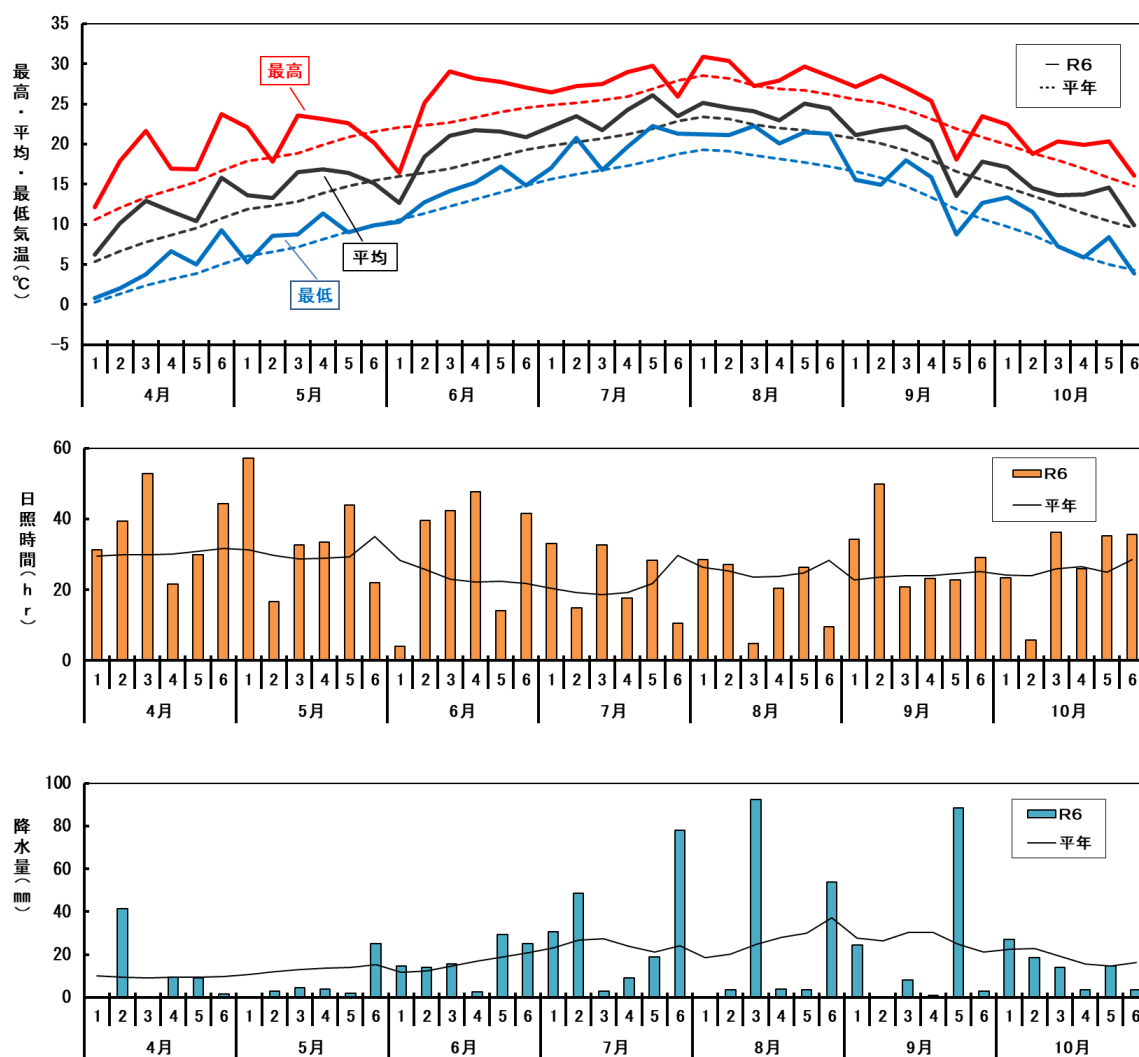


図1 令和6年 県北農業研究所における半旬別気象経過図 (10月第6半旬まで)

- ※ 気温と日照時間は県北農業研究所気象観測値、降水量は軽米アメダス観測値
- ※ 気温と日照時間の平年は平成9年～令和5年の27ヵ年平均値
- ※ 降水量の平年は平成3年～令和2年の30ヵ年平均値